

「新しいふるさと」 づくりを

座談会



「新知事に抱負を聞く」

人間尊重、生活優先を基調とした沢田県政も第二期目を迎えました。きびしい情勢、変化の激しい時代、そして県民の皆さん方の行政に対する要望が多様化する中で、真に豊かな県民生活をいかに確保してゆかが課題であります。沢田知事は二期目の県政を担当するに際して「新しいふるさとづくり」を提唱、県民の皆さんと一体となって積極的に県政を推進していこうとしています。そこで、ここでは農業、中小企業経営者、勤労者、主婦の代表者の方々にそれぞれの立場から新知事に抱負を聞いていただきました。

県民の心と力を結集して

出席者

農業	米ヶ田 研男 (三六)
	鹿本郡植木町色出
勤労者	山本 一弥 (三四)
	熊本市野口町
中小企業	大滝 克治 (二九)
	熊本市琴平
主婦	福成 桂子 (三八)
	熊本市楠
熊本市	沢田 一精
熊本市	

知事は座談会を前に次のように抱負と決意を語りました。

発展のきざしが

—人口

高校進学率 増など—

私は四年前、知事として県政をおおざかりすることになったわけですが、基本的には「人間尊重、生活優先」ということを当初から申し上げました。それから、県政を執行する私の心構えとしては、県民の皆さま方との対話、あるいは県民総参加の県政というようなことをモットーにしていまいました。

県民の皆さま方との対話といっても、果してそれが当初考えたとおりにスムーズにいったかどうかということ、今反省してみても、なかなか難しい面があることも事実なんです。

県政いろんな面でも、まだまだ不十分なところが沢山あるわけですが、いっからは将来発展する兆が四年間経過し

てでてまいりました。結果からだけみますと、昭和三十年代から熊本県人口は減りつづけていたわけですが、これが四十八年の五月頃から増加に転じてきました。それから、県民の所得も、ここ一、二年の伸び率は、全国平均の伸び率を少しづつですけれども、うまわってきております。非常に喜ばしい現象です。

教育の問題ですが、私が四年前に就任しました当初、高校への進学率は全国平均に比べて九%も低かったわけです。その後、新高校の設置、辺地の

自然保護と環境整備など

それでは当面、どういう具体的な方向で県政を進めていくかについて、次の五つのことを申し上げたいと思います。

第一番目には、美しい熊本を自然と環境をつくりたいということ。高度経済成長の過程において、自然はもとより、お互いの生活環境まで破壊されておりますが、その中にあって、熊本県は後発の利益と申しますか、比較的開発が遅れていたため

—新県政五本の柱—

に、まだまだ自然の良さが残っております。そういった自然というものを大事にしながら、お互いの生活環境を快適なものにとり考え方を。

第二番目には、活力のある産業を展開するということです。

特に、第一次産業のもっている意義と価値というものを改めて認識したいと考えています。

農業や林業は緑の産業と言われま

分校設置ということに努力いたしました。その結果、本県においても、全国平均なみの割合が高等学校に行けるという基礎ができました。

そういつた、いくつかの将来発展する兆はみえてきた矢先なんです。昨年来の異常な経済変動下における総需要抑制といった厳しい時代において、財源を確保しながら、いかにして県民の期待にこたえていくかということとは容易な問題です。

それだけに、決意を新たにして県民の期待に応えたいと考えております。

ものは、環境との調和という面から非常に重要な役割をすることを考えます。第一産業を基本に熊本県の産業というものを考えてゆきたいと考えています。

いまひとつは、永い間、熊本県の経済を支えてきた地場企業、あるいは中小企業対策というものを、こういう経済変動の激しい時期にあればあるほど重視しなければならないということ。

第三番目には、社会福祉の充実と県民の健康増進ということ。

こういう変化の激しい時代に対応できない老人、身障者、あるいは難病に悩む人々に対して、手厚い施策を講じていきたいと思います。県民の幸福の基礎になるのは、県民の健康増進という認識に立ち、医療体制の整備ということを基本的に考えたいと思います。

第四番目には、教育の問題です。今までは主として、高校への進学率とか、複式学級の解消といった点に重点があったわけですが、これからは社会教育・社会体育ということにも目を向けたらと思います。

社会教育ということとは、どういう意味かと申しますと、行政面で住民の要望を取りあげ、施策に生かそうとする場合に、住民の理解と協力がなければ出来ないことを痛感しております。学

校教育ばかりでなしに、生涯教育というか、正しい物事に対する理解と判断を県民全ての皆さんが身につけてもらいたいという願いが含まれております。

公民館、あるいは青年団、婦人会といった組織活動は今後とも育成を助長していく必要があると考えます。

それから、スポーツという問題があります。私はこれを重視していきたいと考えております。県民の健康づくりということを先程申し上げましたが、それだけではなしに、精神的な地域の連帯性を養うという意味からしても、県民みんながスポーツを楽しむというように県にしたいと考えています。

第五番目は、近代的な都市施設の整備と過疎地域対策の充実ということ。

時代の進展に応じて、いろいろな都市としての機能、施設の整備は必要です。生活環境の整備、教育文化施設の整備、例えば、県民文化会館的なものが必要だということもありましよう。あるいは複雑化する流通機構に対応しての流通センター、そういう経済活動にかかわりのあるものの整備も必要でしょうし、近代的な都市として、住民が要求されるものは多方面にわたるろうと思えます。

そういうものは、業界なり市の計画